

アジアの染色・刺繍・民族衣装装着体験プログラムの実践報告

—ひらめき☆ときめきサイエンスプログラム 2015-2017—

都甲 由紀子 (教育学部)

朝比奈 はるか (防衛医科大学校)

菊池 多絵 (日本ブータン刺繍協会)

【要旨】

地理的には日本に近いものの、アジア諸国に住んでいる人々の生活について中高生が知る機会や、海外のフィールド調査と実験研究を組み合わせる研究をしている大学教員の研究成果に触れる機会も少ない。そこで、科研費の助成を受けたブータン王国・雲南省・ミャンマーにおける調査研究の成果を紹介する形で、アジアの染色・刺繍・民族衣装装着体験プログラムを中高生対象で実施した。本稿では、2015～2017年に開催したプログラムの実施内容、運営スタッフの協力体制、広報活動、安全配慮、参加者の感想等について報告する。

【キーワード】

染色 (dyeing) 刺繍 (embroidery) 民族衣装 (learning sharing) アジア (Asia)

ブータン (Bhutan) 雲南省 (Yunnan province) ミャンマー (Myanmar)

生活科学 (life science) 体験プログラム (experience program)

I. はじめに

グローバル化の進展とともに国際理解教育が推進されてきた一方で、大分県には留学生が約半数の立命館アジア太平洋大学も存在するが、中高生の時点で海外の様子や人々の生活を知る機会や、大学における研究活動に触れる機会は少ない。科研費の「挑戦的萌芽研究 23650453 雲南省山岳地域における少数民族の生活科学に関わる伝統知識の解明」において朝比奈が代表者、都甲が分担者となり、中国南西部・雲南省の市場において植物や染織品に関する少数民族伝統知識の現地調査を行った。並行して「若手研究(B) 25870561 ブータンにおける衣生活文化の保護と衣服材料生産に関する伝統知識の解明」において都甲が代表者となり、日本ブータン刺繍協会の菊池に協力を得た。日本学術振興会は、大学や研究機関で科研費により行われている研究成果を小中高生に紹介するため、「ひらめき☆ときめきサイエンスプログラム」を開催しており、この企画の一つとして都甲・朝比奈・菊池の3名で講師をつとめ、アジアの染色・刺繍・民族衣装装着体験プログラムをこれまで3回実施してきた。

II. ひらめき☆ときめきサイエンスプログラム

本報では、3回のプログラムの実施内容とその様子について報告する。この3年間のプログラムの実施日、テーマ、参加者数、見学者数、スタッフ数を表1に、募集のポスターを表2に示す。

表1 実施したプログラムの実施日、テーマ、参加者数

実施日	テーマ	参加者	見学者	スタッフ	計
2015年(平成27年) 12月13日(日)	ブータンと雲南省の染織刺繍にまつわる生活科学 ～染色と刺繍の実習をとおして生活科学に親しもう～	9 高9	4 保護者2	12 学生7	25
2016年(平成28年) 12月11日(日)	アジアの染織刺繍にまつわる生活科学 (ブータン・雲南省・ミャンマー)	5 高5	0	12 学生7	17
2017年(平成29年) 11月12日(日)	染色と刺繍を体験して、アジアの民族衣装を着てみよう!	9 中3, 高6	4 保護者4	12 学生7	25

表2 募集ポスター

2015年(平成27年)	2016年(平成28年)	2017年(平成29年)

講義内容を分かりやすく伝えるためスライドと講義テキストを作成し、講義中も実際の染織材料や民族衣装等を使って講義をして印象に残りやすくなるようにし、参加者が飽きないように実習や体験が多くなるよう工夫して計画した。少しずつ改善して3回目の形に至った。

1. 当日の日程

3回の日程は次の表のとおりである。少しずつ調整しながら改善してきたが、ほとんど同様の日程となっている。

平成 27 年度	
「ブータンと雲南省の染織刺繍にまつわる生活科学 染色と刺繍の実習をとおして生活科学に親しもう」	
9:30～10:00	受付(共用学生科学実験室1集合)
10:00～10:30	講義(都甲 染色材料の植物や動物, 染色実習の進め方の解説)
10:30～12:00	染色実習(ラック, 茜による刺繍糸とポケットチーフの染色)
12:00～13:00	昼食
13:00～14:00	刺繍の実習(染色した刺繍糸を使った刺繍)
14:00～14:30	ティータイム(ブータン・雲南省の民族衣装着装)
14:30～15:10	講義(都甲・朝比奈) (ブータン・雲南省のフィールド調査)
15:10～15:20	休憩
15:20～15:40	講義(都甲・朝比奈)(研究職の仕事, 科研費の説明)
15:40～16:00	修了式(アンケート記入, 未来博士号授与)
16:00	修了・解散



写真1 平成 27 年度集合写真

平成 28 年度	
「アジアの染織刺繍にまつわる生活科学(ブータン・雲南省・ミャンマー)」	
9:00～ 9:30	受付(集合)
9:30～ 9:50	開講式(都甲 挨拶, 自己紹介, 1日のスケジュール確認)
9:50～10:20	講義(都甲 染色材料の植物や動物, 染色実習の進め方の解説)
10:20～10:30	休憩
10:30～12:00	染色実習(刺繍糸とポケットチーフの染色)
12:00～13:00	昼食
13:00～14:30	刺繍の実習(菊池・都甲 染色した刺繍糸を使った刺繍)
14:30～15:00	ティータイム(ブータン・雲南省・ミャンマーの民族衣装着装)
15:00～15:50	講義(朝比奈 雲南省・ミャンマーのフィールド調査)
15:50～16:00	休憩
16:00～16:10	講義(都甲・朝比奈 研究職の仕事, 科研費の説明)
16:10～16:30	修了式(アンケート記入, 未来博士号授与)
16:30	終了・解散



写真2 平成 28 年度集合写真

平成 29 年度	
「染色と刺繍を体験して, アジアの民族衣装を着てみよう！」	
9:00～ 9:30	受付(集合)
9:30～ 9:50	開講式(都甲 挨拶, 自己紹介, 1日のスケジュール確認)
9:50～10:20	講義(都甲 染色材料の植物や動物, 染色実習の進め方の解説)
10:20～10:30	休憩
10:30～12:00	染色実習(刺繍糸とポケットチーフの染色)
12:00～13:00	昼食
13:00～14:30	刺繍の実習(菊池・都甲 染色した刺繍糸を使った刺繍)
14:30～15:00	ティータイム(ブータン・雲南省・ミャンマーの民族衣装着装)
15:00～15:45	講義(朝比奈 雲南省・ミャンマーのフィールド調査)
15:45～16:00	休憩
16:00～16:15	講義(都甲・朝比奈 研究職の仕事, 科研費の説明)
16:15～16:30	修了式(アンケート記入, 未来博士号授与)
16:30	終了・解散



写真3 平成 29 年度集合写真

2. 運営スタッフの協力体制

事務局との協力では、開催までの準備として、日本学術振興会との連絡調整、提出書類の確認・修正、広報課と連携した宣伝、ポスター等の県内高校への配布および高校訪問の際の同行、参加申し込みの受付、委託費の管理について協力を受け、開催当時は、会場準備、受付、お弁当等の手配、写真撮影について協力を受け、円滑に開催することができた。学生スタッフは都甲研究室に所属する3～4年生7名であり、教育職員免許状取得希望者、中高家庭科教員志望者も多かったため、準備や参加者対応についての的確な協力が得られた。学生スタッフにとっても学びの多いプログラムとなった。

3. 広報活動

ポスターとチラシを作成して県内の中学校・高校に配布した。近隣の中学校・高校に直接訪問し理科・家庭科の教員に宣伝をお願いした。大学の公式 Web ページ、Facebook ページ 等、インターネット上で宣伝をした。プログラムの様子を紹介する動画を制作して公開した（「アジアの染織刺繍にまつわる生活科学 2016」<https://www.youtube.com/watch?v=4uTgTnZfWgs>）。1～2回目に高校のみとした募集を3回目は中学校にも広げた。

4. 安全配慮

安全には十分に気をつけた。プログラム実施日の参加者を対象として傷害保険に加入した。染色を行う際にガスの火を使い、また、刺繍では針やハサミ等を使用するため、学生スタッフを適宜配置し、火傷や怪我のないよう配慮した。

III. 実施プログラムの内容

1. 染色についての講義と実習

実施代表者である都甲による挨拶、講師の紹介、参加者同士の自己紹介、スケジュールの確認をして、天然染料に関する講義の後、次の実習の進め方を解説した。ブータンより持ち帰ったラック、購入したインド茜と育てた日本茜（H29は購入した蘇芳）の3種類の染料を使用して、ポケットチーフと刺繍糸、多織交織布を染色した。ポケットチーフはビー玉とおはじきとゴムを使って絞りの模様を入れた。染色を体験したことのない参加者も多く、終始楽しそうな雰囲気であった。

2. 刺繍実習

菊池のブータンの刺繍作品を鑑賞した後、染色した刺繍糸を用い、テーブルセンターに刺繍を施した。2色の糸を用い、チェーンステッチで渦巻きを作るブータンの刺繍技法で刺繍を体験した。

3. 中国茶の試飲

朝比奈持参の雲南省の中国茶を本格的な茶器で楽しんだ（H28,29）。



写真4 プログラムのはじまり (H27)



写真5 ラックで染色中 (H28)



写真6 ラックで染色した絹布 (H29)



写真7 菊池の作品解説 (H28)



写真8 刺繍糸の扱い方講習 (H29)



写真9 刺繍の実習 (H29)

4. 民族衣装着装

ミャンマーで調査している朝比奈がミャンマーの民族衣装を持参した。菊池と都甲のブータンの民族衣装を用意した。雲南省調査中に入手したイ族の民族衣装と立命館アジア太平洋大学 (APU) 留学生にいただいたブータンの男性用民族衣装も用意し、全員で着装した。

5. ブータン・雲南省・ミャンマーのフィールド調査についての講義

都甲からはブータンについて、朝比奈からは自身が研究代表者としてフィールド調査した雲南省やミャンマーでの調査の様子や薬用植物に関する研究内容、異分野で連携して研究することのおもしろさについての講義をした。

6. 研究職の仕事，科研費の説明

研究者になるための自身の体験や道筋，研究職の仕事内容，科研費事業の取組み内容について説明した。1，2回目は全員女子高校生，3回目に参加した中高生9名中8名は女子であったことから，最近特に日本で女性も研究者を目指すよう促されている動向についても紹介した。

7. 修了式

最後に修了証を渡してアンケートをとり，参加者に感想を述べてもらって終了した。



写真10 中国茶講座 (H28)



写真11 民族衣装を着ての記念撮影 (H29)



写真12 朝比奈の講義 (H27)



写真13 修了式 (H29)

IV. 参加者の感想

表3 受講者、保護者、学生スタッフの感想

	感想
受講者	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 今日1日中、興味のあるテーマばかりで、本当に本当に楽しかったです。ふだんは、興味があってもあまり知る機会のない、アジアの民族について実際に現地に行かないとできないような体験を通して、楽しく知れました。友達ができるか不安だったけど、最後には、他校の人や大学生とも話すことができ、うれしかったです。今日、改めて、このようなことが学べる学部に進学したいと思いました。あっという間で、夢のような1日でした。このような機会をありがとうございました。 ◆ 今回染色や刺繍、民族衣装装着というあまり体験できないようなことができて良かったと思います。染色や刺繍についてや、ミャンマー、雲南省、ブータンについてのことをたくさん知ることができもっと深く知りたいとさらに感じました。今日ここで学んだことをいろいろな人に話して共有したいと思いました。私は高校を卒業したら留学をしようと思っているので、留学先などで見つけた自分の興味のあることについて自分のオリジナルを大切に研究してみたいなと思いました。今日はありがとうございました。 ◆ 今日のプログラムは、初めて参加しましたがとても楽しかったです！！国際文化について、あまり詳しく知りませんが、今日のプログラムの中で先生方、先輩方の説明でとても楽しく過ごすことができました！！どれも貴重な体験になりました。今日は本当にありがとうございました！！ ◆ イ族の服は、キラキラで、とても着れて楽しかったし、うれしかった。染色は虫から色をとったり、水から出した色に「す」を入れると色が変わったりしてびっくりしました。来てよかった。 ◆ とても楽しく染色や刺繍をすることができた。初めてミャンマーの民族衣装を着た。思ったよりきれいでかわいかった！ ◆ チベットに興味があり、いつかラサヤカイラス巡礼にいつか行ってみたいなあ 東南アジアもあちこち行きたいと思っていたので今日はとても楽しくできました。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ◆ とても楽しくて、一日と思いましたが、あっという間に終わった感じがしました。 ◆ 子どもたちの将来に進路に何か指針になってくれるだろうと思います
学生スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 高校生との交流は大学生にとっても意味のあるものだったと思うので、また開催して欲しい。 ◆ 「研究とは」ということは、とても興味深いことなので、高校生のうちに考えてみる機会があるのはうらやましいと思いました。 ◆ 参加者に声をかけた所、学校で配られたチラシを見て「面白そう」と感じ自主的に参加を決めたとのこと。内容も充実していた為、とても貴重な体験になったのではないかと思います。 ◆ 中高生に教えるだけでなく、自分も勉強になりました。チェーンステッチ絶対家です！ ◆ 先生方のお話を聞いたり、民族衣装を着たり貴重な経験ができました。日本以外のお茶を飲むことも、刺しゅうをすることもあまり体験したことがなかったので、私自身、とても勉強になりました。ありがとうございました。

V. おわりに

大分県内の中高生に広く参加者を募って開催しており、県内遠方からの参加もあった。参加者は多くないものの、海外をフィールドとした生活科学の研究に関心をもってもらうことができたと感じて

いる。また、何よりも一日中笑顔が多く見られ、参加者の様子やアンケートの結果から参加者の満足度は高いと感じられた。今後は広報活動などこれまでの反省点を生かし内容を整理して、参加者に科学への好奇心やアジア諸国に対する関心を持ってもらえるよう内容をさらに工夫して、より多くの参加者を集め開催したいと考えている。

【謝辞】

本プログラムの実施にあたっては、独立行政法人 日本学術振興会の事業「小・中・高校生のためのプログラムひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～」の資金により運営することができました(平成 27 年「ブータンと雲南省の染織刺繍にまつわる生活科学～染色と刺繍の実習をとおして生活科学に親しもう～」(HT27277), 平成 28 年「アジアの染織刺繍にまつわる生活科学(ブータン・雲南省・ミャンマー)」(HT28304), 平成 29 年「染色と刺繍を体験して、アジアの民族衣装を着てみよう!」(HT29316)に採択)。本事業は、科学研究費による研究成果の社会還元・普及を目的として行われているものであり、当該事業への応募に繋がった科学研究費は、「若手研究(B) 25870561 ブータンにおける衣生活文化の保護と衣服材料生産に関する伝統知識の解明」です。ここに謝意を表します。

最後に、初回にご参加くださいました事業推進委員会委員の萩原なつ子先生、プログラムの実施にあたり多くの協力をいただきました学内の教職員各位、学生スタッフとして関わってくださった教育福祉科学部家庭科選修・生活分野の学生各位に感謝いたします。

【参考文献・参考資料】

1. 都甲由紀子, 駒城素子「ブータンにおける天然染色 ラック, アカネによる染色」大分大学生涯学習教育研究センター『大分大学教育福祉科学部研究紀要(第33巻 第1号)』平成23年4月, 43～50頁。
2. 山本けいこ著『ブータンの染と織』染織と生活社, 1995年。
3. 「小・中・高校生のためのプログラム ひらめき! ときめきサイエンス プログラムの事例紹介 平成27年度」日本学術振興会
https://www.jsps.go.jp/hirameki/09_kufuu_h27.html
4. 「小・中・高校生のためのプログラム ひらめき! ときめきサイエンス 過去の実施プログラム」日本学術振興会
https://www.jsps.go.jp/hirameki/kako_jisshi_list.html